

「改めて地域移行について」

当法人の特徴的な取り組みは入所施設からの地域移行です。「向陽園」の開園時に入所された50名は途中で亡くなられた方以外は障害の状況に関わらず全員がグループホームでの生活に移行されました。ある保護者からは「せっかく入れた施設からよくわからないグループホームにと言われて面と向かっては反対できず説明会の後に蕎麦屋さんで2時間以上反対で盛り上がった」とのことでした。地域移行が進むと利用者の生活や行動も落ち着いてきて自分の子供はいつかの要望をいただき、障害の重い自分の子供がグループホームで暮らせることは奇跡だとの話もいただきました。自活訓練棟やグループホーム開設にあたっては近隣住民の皆さんから数多くの反対がありました。多くが障害のある方を知らないための反対でしたが一方で賛成する方からは反対する住民の心の狭さが課題との発言がありました。その後は多くの方にグループホーム建設にご協力をいただきました。現在100名を越える人たちがグループホームでの生活を送っています。意思決定支援や地域共生の時代ですが厳しい実態



社会福祉法人愛泉会
理事長
井上 博

があります。重度化・高齢化との理由で地域移行は進まず、退所の4分の1は死亡退所です。福祉先進国では過去のものとなった入所施設の縮小がすすみません。入所施設における地域移行の意思確認が検討されていますが入所施設は短期の利用期間とし、地域社会に移行するための機能とすべきです。地域移行を進めるには重度化高齢化に対応するグループホームの基盤強化や地域サービスの一層の充実が求められます。現在当法人のグループホームは利用者の高齢化が進み、車いすを利用の方や特別な入浴設備が必要な方が多くなっており高齢者分野の連携が喫緊の課題となっています。

利用者の皆さんが自分の暮らしたいところで暮らすという当たり前のことが可能となるようにソーシャルワークを土台とした実践を続けてまいりましょう。

支え愛

『事業所サービス第三者評価委員として』

私は以前、向陽園の通所事業でのリハビリ的な支援のお手伝いで、月2回ほど定期的に伺っていたことがありました。利用者様の笑顔と愛泉会の職員の皆様の熱意が印象的でした。現在、私は幼児から小学生を対象とした、児童発達支援・放課後等デイサービスの通所サービスの三つの事業所と、内、一つは保育所等訪問支援・居宅訪問型児童発達支援の訪問系サービスも行う事業所を運営しております。

この度、第三者委員(事業所サービス第三者評価委員)を拝命し委員会に参加させていただいております。児童の領域でも第三者委員会の必要性が叫ばれていますが、通常的手段では毎年実施することが不可能な高額な費用がかかることがわかりました。愛泉会ではより頻りに調査ができるようにと独自に第三者委員会を立ち上げるとのお話を伺い、私自身の学びにもなると思い、お引き受けしたところです。何度かグループホームに伺い、きれいでアットホームな雰囲気の事業所内を見学させていただきました。何人かの利用者様とお会いすることができました。また、会議の際は詳細な資料を基に、丁寧に説明をして

合同会社
リハサポート アーチ
代表社員
作業療法士 小川 友美



いただきました。入所施設があり、利用者様の人数がとても多く高齢化してきていることもあり、多くの課題があることを知りました。職員の人手不足や利用者様の老化に伴う身体機能の低下への対応や、WIFI環境を良くすること等の今時の課題もあり、いくつか提案をさせていただきました。少しずつ、でも着実に改善が成されていくものと期待しております。

第三者委員会での訪問で、重い障がいのある方が地域の家庭に近い雰囲気に住環境で暮らしていることに、改めて深い感銘を受けました。この事業が今後も長く継続できるように、手立てを講じることがとても重要だと思えます。愛泉会の今後の発展をお祈り申し上げます。



1人ひとりの望む暮らしを目指して～ソーシャルワークの実践～

利用者の「願い」を中心に据えて支援にあたることを、愛泉会では1つのテーマにしています。どんなところでどんな暮らしをしたいか、その想いを具現化するために様々な取り組みを実施しています。想いの実現に向けて一緒に取り組んでいる内容をご紹介します。

デイサポートちとせんぼ

『絵カードを使った取り組みについて』



Aさんは、20代の女性です。高等部卒業後、ちとせんぼの利用を開始し、今年で7年目になります。普段はとても元気に、職員や利用者や沢山話しながら活動に参加をされていますが、何か心配事があって不安になると、一転、自分の気持ちを話せなくなり、活動に参加することができなくなってしまふこともあります。

Aさんのプラン会議の際、「本当に伝えたいことをなかなか言えない」、「本当に伝えたいことは、呟くようにお話しされる」、「Aさんは、勇気を出して伝えたいことを呟いている。呟いた言葉を職員が上手く汲み取れない、受け止められないのは、Aさんの勇気、想いを台無しにしてしまうことになるのではないか」との話しになりました。そこで、毎日お気持ちを聞く場面を作る、ご本人が伝えやすい絵カードを試してみるということをプランに入れ、Aさんに絵カードのことを提案、Aさんもやってみようとのことだったので「絵カードを用いてのコミュニケーション」を実施することにしました。

具体的には、毎朝、バイタル測定をする際に、「今日はどうですか?」と職員が声掛けし、その日その

絵カードを用いてのコミュニケーション

日のお気持ちをカードを選び、伝えていただくというやり取りです。この取り組みをはじめから、Aさんと職員とのやり取り、コミュニケーションが毎日行われることから、Aさん自身安心感をもたれているように感じられます。Aさんに絵カードを使つてのコミュニケーションを行つての感想をお聞きしたところ、「これからも続けたい」、「いろんなカードを使つてみたい」とお話しがありました。

Aさんのお気持ちは、カレンダーに記入して記録し、後日、職員間の話し合いの場で振り返りを行っています。普段は「調子が良い」のカードを選ばれていますが、体調が不調だったり、心配事があつたりしたときには「イライラ」、「不安」といったカードを選ばれており、「イライラ」、「不安」カードを選んだ時には、「どうしたの?」と声をかけることが必要なことなどが解ってきました。以前は「ご飯を食べない」「車から降りない」等の行動で自分の気持ちを表していたAさんが、自分の気持ちを伝える手段ができたことで変化が見られるようになりました。小さな声だけれども自分の気持ちを話したり、体調面のことでも不調になり、活動に参加するのが難しい時には、体調が悪いなりにどう過ごしたいのか、伝えてくれたりするようになりました。

Aさんへの「絵カード」と「毎日聞く」という取り組みをつうじて、ご本人が自分のお気持ちを周りに少しずつ伝えられるようになってきているのではないかと感じています。また、職員の方でもAさんとのやり取りを行ったことで、変化に気づくことができるようになってきました。将来、Aさんが自分で気持ちを伝えて、自分の意思決定ができるように、職員の知識や支援のスキルを高めていきたいと思えます。

[デイサポートちとせんぼ 支援員 田苗 剛己]

